

授業科目(ナンバリング)	相談援助実習の理解 (DA208)			担当教員	裏 孝承、種橋 征子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉の学びを社会福祉士取得へと結実させることを意識しはじめる2年次には、これまでの座学による知識・技術の習得に加えて、実践能力をつけるための実習の重要性を理解し、その準備を行うことが課題となる。そのために設定されたこの科目では、対象者の生活課題と思い、専門職養成における実習の一般的意義、社会福祉士養成における実習の位置づけ、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士、実習実施の方法・形態、実習における指導の特質と評価について、その概要を学び、それらについて基礎的理解を固め前進させることをねらいとしている。またこの科目は、実習に向けて具体的準備を行う「相談援助実習指導Ⅰ」へつながる科目であるので、社会福祉士取得希望者は履修することが必要である。</p>							①②④⑥⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	相談援助実習に取り組む意欲、実習へ向けての積極的態について文章化して表現できる。				・課題レポート	20%	
情報収集、分析力	社会福祉士への育ちの過程には実習が重要な位置を占めることを理解し、相談援助の担い手としての価値・倫理観、自己覚知と自らの課題を考えることができる。				・授業態度 ・授業内課題	10% 10%	
コミュニケーション力	相談援助事例において、これまで習得した知識・技術を活用した支援を構想することができる。				・授業態度	10%	
協働・課題解決力	相談援助実習の意義と内容、方法・形態を説明できる。				・課題レポート ・授業内課題	20% 10%	
多様性理解力	福祉機関の利用者の多様性を理解することができる。多様な人びとと共生し、仲間や家族となって力を合わせて暮らすことを想像しその意味を理解することができる。				・課題レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業態度（20%）は、授業への参加の姿勢から、実習に取り組む意欲・態度を有しているかを判断する。また、グループワークの積極性とプレゼンテーションの適切性で評価する。課題レポート（60%）は、①ゲストスピーカーの授業内容を記録し、記録の適切性を評価する。②新聞・ニュースのスクラップを行い、考察を行い、実習で求められる支援場面における知識・技術の活用能力をみる。授業内課題（20%）は、授業の振り返りをポートフォリオで提出することで、相談援助の担い手としての価値・倫理観をはじめとして、実習の意義と内容、方法・形態などを説明できるかどうかを問う。課題レポートと授業内課題は、締め切り日を厳守し、フィードバックは、授業内で行う。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>専門職養成における実習の一般的意義、社会福祉士養成における実習の位置づけ、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士、実習の方法・形態、実習における指導の特質と評価等について、概要を講述する。また、ディスカッションを通して理解を深める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：白澤政和・米本秀仁編集（2014）『社会福祉士 相談援助実習』第2版 中央法規 参考書：必要に応じて紹介する 指定図書：長崎国際大学社会福祉士実習報告書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>今日の社会福祉士養成課程においては、実習の重要性が改めて認識されている。実習では、座学で学んだ理論、演習で取り組んだそれら理論の活用法、加えて、実習生がこれまでの人生で培ってきた物事への取り組み方など、すべてが動員される。そこで、自らのものの考え方の特徴や傾向、行動のあり方、抱える課題などを見つめるように努力してほしい。また、現場の姿を具体的に知るために、積極的にボランティア活動に取り組んで欲しい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (本講義の意義について)	科目「相談援助実習の理解」の説明をする。また、社会福祉士になりたいのかについて、事例から考える。(表、種橋)	予習：シラバスを読む。復習：「相談援助実習の理解」に臨む心構えを形成する。
2	相談援助実習の位置づけ	社会福祉従事者にかかる養成制度と養成課程等を理解する。(表)	予習：第1部第1章を読む。復習：授業内容を振り返り、課題をまとめる。
3	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士	社会福祉士の仕事について、イメージを持ち、ワークシートを完成する。また、ゴミ屋敷から地域へ働きかけるソーシャルワーカーに関するDVDをみる。(表)	予習：ソーシャルワーカーの役割について考える。復習：授業内容を振り返り、課題をまとめる。
4	実習機関・施設、地域の理解	社会福祉の対象者(高齢者、児童、地域など)や支援形態、関連法律から実習機関・施設を理解する。また、長崎国際大学の実際に配属される実習先について知る。(表)	予習：第2部第7章を読む。復習：授業内容を振り返り、課題をまとめる。
5	社会福祉の対象者と支援形態について理解する①	高齢者福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)(種橋、表)	予習：高齢者福祉サービスについて情報を調べる。復習：授業内容の振り返りを行い、記録を完成する。
6	ゲストスピーカーの話の振り返り	ゲストスピーカーの話から学んだことなどを、記録を用いてディスカッションし、共有する。(種橋、表)	予習：前回の記録と資料を読む。復習：授業内容の振り返りを行う。
7	社会福祉の対象者と支援形態について理解する②	障害者福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。(ゲストスピーカー・実務家)(種橋、表)	予習：障がい福祉サービスについて調べる。復習：授業内容の振り返りを行い、記録を完成する。
8	ゲストスピーカーの話の振り返り	ゲストスピーカーの話から学んだことなどを、記録を用いてディスカッションし、共有する。(種橋、表)	予習：前回の記録と資料を読む。復習：授業内容の振り返りを行う。
9	社会福祉の対象者と支援形態について理解する③	児童福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。(ゲストスピーカー・実務家)(種橋、表)	予習：児童福祉サービスについて調べる。復習：授業内容の振り返りを行い、記録を完成する。
10	ゲストスピーカーの話の振り返り	ゲストスピーカーの話から学んだことなどを、記録を用いてディスカッションし、共有する。(種橋、表)	予習：前回の記録と資料を読む。復習：授業内容の振り返りを行う。
11	社会福祉の対象者と支援形態について理解する④	医療ソーシャルワークの仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。(ゲストスピーカー・実務家)(種橋、表)	予習：医療福祉サービスについて調べる。復習：授業内容の振り返りを行い、記録を完成する。
12	ゲストスピーカーの話の振り返り	ゲストスピーカーの話から学んだことなどを、記録を用いてディスカッションし、共有する。(種橋、表)	予習：前回の記録と資料を読む。復習：授業内容の振り返りを行う。
13	対象者と生活課題の理解	スクラップを用いて、対象者の思いや生活課題についてグループでディスカッションを行う。(種橋)	予習：自分のスクラップすべてを読む。復習：授業内容をまとめる。
14	実習のねらい・目標 実習スーパービジョンの理解	事例を通して、ほう・れん・そうについて学ぶ。実習に取り組むねらいと目標をグループワークで確認する。(種橋)	予習：第1部第2章6章を読む。復習：授業内容をまとめる。
15	見学実習ガイダンス 見学実習の事前学習	「相談援助実習指導Ⅰ」(後期)の最初に行う見学実習について、その意義、実施方法、参加に当たっての注意事項、その後に提出する分野希望票とレポートなどについて、ガイダンスを行う。また、見学実習先について理解し、疑問点について整理する。(種橋)	予習：第2部第9章を読む。復習：授業内容をまとめる。